

用語解説

用語	解説	頁
COP21 パリ協定	<p>国連気候変動枠組条約締約国会議。2015年にパリで開催された気候変動に関する国際会議（COP21）で締結された合意です。歴史上はじめて、全ての国が参加する公平な合意です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界共通の長期目標として2°C目標の設定。1.5°Cに抑える努力を追求すること。 ・主要排出国を含む全ての国が削減目標を5年ごとに提出・更新すること。 ・全ての国が共通かつ柔軟な方法で実施状況を報告し、レビューを受けること。 ・適応の長期目標の設定、各国の適応計画プロセスや行動の実施、適応報告書の提出と定期的更新などが合意されました。 	8
生物多様性条約 COP15	<p>生物多様性条約（CBD）の締約国会議（COP15）は、2021年と2022年に開催された会議で、世界の生物多様性を保護するための新たな目標を設定することが目的でした。特に、2020年に設定された「2030年生物多様性目標（30by30）」が強調されました。生物多様性の保全は気候変動対策とも関連しています。</p>	8
30by30	<p>2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。2022年12月に生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択された「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」では、2030年グローバルターゲットの1つに盛り込まれました。我が国ではこの新枠組を踏まえ、2023年3月に新たな生物多様性国家戦略「生物多様性国家戦略2023-2030」を閣議決定し、2030年までのネイチャーポジティブ（自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること）実現に向けた目標の一つとして30by30目標を位置付けています。</p>	8
ネイチャーポジティブ	<p>ネイチャーポジティブとは日本語訳で「自然再興」といい、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことを指します。これまでの自然環境保全の取り組みだけでなく、経済から社会、政治、技術までの全てにまたがって改善を促していくことで、自然が豊かになっ</p>	8

	ていくプラスの状態にしていこうというのがネイチャーポジティブの趣旨です。	
Society5.0	日本が提唱した、情報技術（AI、IoT、ビッグデータなど）を駆使して、社会課題を解決し、持続可能で豊かな社会を目指す構想です。農業、製造業、医療、教育などの分野でデジタル化を進め、物理的な世界とサイバー空間が融合した新しい社会の形を目指します。	8
テクノストレス	テクノロジーの進化により、過剰な情報の取扱いや常に接続されていることによって生じるストレスのことです。電子メールやSNSの通知などが原因となり、精神的な負担が増すことがあります。	8
ウェルビーイング (well-being)	単に健康であることにとどまらず、心身の充実、社会的なつながり、自己実現の感覚など、総合的な幸福感や生活の質を指します。個人や社会のウェルビーイングを向上させることが、持続可能な社会づくりの重要な要素とされています。	8
SDGs(Sustainable Development Goals)	2015年に国連で採択された17の目標で、2030年までに持続可能な社会を実現することを目指しています。貧困の撲滅、教育の向上、気候変動への対応、ジェンダー平等など、地球規模で直面する課題に対処するための具体的なターゲットが設定されています。	8
2050年カーボン ニュートラル	2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」※から、植林、森林管理などによる「吸収量」※を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。 ※ここでの温室効果ガスの「排出量」「吸収量」とは、いずれも人為的なものを指します。 カーボンニュートラルの達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化をする必要があります。	8
グリーンインフラ	自然環境を活用したインフラ整備のことです。都市部では、公園、緑地帯、屋上緑化などが含まれ、気候変動の影響を緩和し、都市の生態系を保護する役割を果たします。これにより、生物多様性の保全や温暖化対策が進むとされています。	8
地域循環共生圏	地域資源を最大限に活用し、廃棄物やエネルギーの無駄を	8

	減らして、環境負荷を最小限に抑える社会のあり方を指します。地域ごとにエネルギー、食料、資源を循環させることで、地域社会の持続可能性を高めます。	
NbS (Nature-based Solutions)	自然の力を利用して環境問題を解決する手法です。具体的には、森林の再生や湿地の保護、都市の緑化など、自然のプロセスを活用して気候変動や生物多様性の喪失に対処します。これにより、環境保護と社会的利益の両立を目指します。	9